

## 原発の高い発電単価、プルサーマル計画、 高浜3号のSG細管損傷について追及



### 電事連の核燃料サイクルコスト試算の ごまかしを追及

美浜原発2号のSG（蒸気発生器）細管で1991年2月9日に起こったギロチン破断事故13周年に当たり、若狭ネットの呼びかけのもと、関電交渉を行いました。

まず最初に申し入れを提出し、藤社長が昨年11月自社等のバックエンドコストの回収は「（社会全体で）広く薄く適切に回収する仕組みが必要」とした、自己中心的な無責任発言の撤回を求めました。また、プルサーマル計画、中間貯蔵施設計画、長期連続運転、定検の手抜き、高燃焼度運転、原発推進教育への支援などの中止と、SG細管全数検査を要求しました。

昨年12月19日に引き続き、「電事連の核燃料サイクルコスト試算に関する追加質問項目」も提出しました。

関電の藤洋作社長が会長をつとめる電事連が、昨年12月16日総合エネルギー調査会・電気事業分科会コスト等検討小委員会に提出した各電源の発電コスト比較で、原発が火力より高いと初めて認めたことについて、その真意を問い詰めると、「事実です」と認める一方で、「参考までに」出したものとの回答。

何の参考にするのかと聞いても答えられず、

これは政府にすごいメッセージを送っているんじゃないかと迫ると、「そうですかね」ととぼける始末。

モデル計算と有価証券報告書での発電単価の計算に「差がないことを確認する意味でも意味はある」という珍妙な回答まで用意していました。

しかし、関電のホームページ等では未だに「原発は安い」と宣伝しているが、「こんな数値も出ていると、『参考のために』示したらどうですか」と勧めると、意外なことにすんなり「そうですね」と同意しました。

このあたり、国民、市民向けには「原発は安い」と大見得切って宣伝しながら、実はバックエンド費用のうち多額の未回収分を抱え、近い将来の自らの経営危機をも毎日ビクビクしながら危惧する大企業として、政府には「原発は高い」と、「か細い声で」本音を打ち明けたい心模様を示していました。

しかし、最初のうちは有価証券報告書ではバックエンド費用の多くが含まれぬままになっていることには、神経をとがらせていました。「全ての費用を含んでないのは事実だが、過去に発生した廃棄物処分費用や再処理引当金とかは入れた比較になっている。大部分入っていないと言うが、正確に9割入っている8割入っているとは言えないが、（含まれて

いないのは) そう大きな値ではない」と言い切りました。

「今回のモデル試算でもそんなバカげた値にはなっていない」とも答えました。こちら側はひとことも今回のモデル試算が「バカげている」とは発言していないのですが、関電は発電単価に占めるバックエンド費用の問題を最重要視していることが、この発言に現れていました。

12月に提出した質問項目については、電事連に問い合わせ「確認した」と答えました。その結果口頭で回答することが決まったそうです。

関電側は電事連からもらったであろう、回答文をその場で丁寧に読み上げました。全般に関する質問への回答は、「プルトニウムの利用はエネルギーセキュリティーの確保、環境保全の観点から重要」、「原子力発電、原子燃料サイクルはエネルギー政策の基軸」、「環境適合性」など旧来の原子力推進の宣伝文句をあげました。

再処理路線をワンスルー路線への転換を政府に求めているのかとの質問には、「ワンスルーへの変更を求めている訳ではありません」と、明確にそれを否定しました。

しかし同時に、「将来のサイクル技術の開発状況や資源の逼迫状況などを十分勘案し、硬直的でなく柔軟に、効率的な方法で原子燃料サイクルを実現すべきと考えております」とも述べて、将来路線の選択肢を増やしている方針も並列させました。

#### 新型 E C T は、検査機能向上せず

高浜 3 号の定検で 311 本もの S G 細管で損傷が見つかった問題では、旧式の D F E C T に替わり新型のインテリジェント E C T を使って細管の検査を行っていると強調しました。だから全数検査ではなく半数検査によっても安全性は確保できると言わんばかりの勢

い。

しかし、インテリジェント E C T の検出する傷の深さは厚みの 20% 程度で D F E C T と変わらず。亀裂を検出する機能は全く変わっていません。関電が最近原子力安全委員会に提出したデータが明らかにそれを示しています。そこを追及すると減肉の幅をより正確に検出できるのだと強調。減肉だけでなく亀裂などの損傷も重大な問題なのに、関電としては美浜 2 号事故直前の不遜な姿勢がいぜん直っていません。

しかも、今回の 311 本の傷の発見は、古い振れ止め金具の当たっていた場所を意識的に調べた結果に過ぎず、大した「成果」などではありません。

#### 関電は M O X 燃料の異常を見抜けない

今年度中に M O X 燃料の発注をしたいという関電に、1999 年に若狭ネット等が指摘したペレット外径の測定データの分布異常という工学における基本的事項を、全く理解できなかった点を問い詰めましたが、全く返事ができませんでした。

昨年 10 月に関電が国や福井県などに提出した「品質保証活動の改善内容」に対して、原子力安全・保安院が 2 月 5 日「海外 M O X 燃料の調達を行うために必要な品質保証体制を構築しているものと認められる」とのお墨付きを発表したのを受け、「品質保証の仕組みがきちっとできていますという評価をいただいた」「一つのステップはクリアできたかなと思っている」と、自信をのぞかせました。

かつて、高浜 3・4 号炉の M O X 燃料を地元などの反対の声をよそに、B N F L へ強引に発注し、私たちに対し「自己責任で発注する」と豪語し、あとで大失態に陥ったのを、関電は再現するというのでしょうか。

今後、福井県や関電に様々な圧力を加えていきましょう。